

今月のハイライト

経済成長促進と国際競争力の強化

1.(ODA ローン)「南北高速道路建設事業(ホーチミン～ゾーザイ間)」パッケージ1A 竣工式及びパッケージ7・8着工式の開催

2012年12月21日にホーチミン市郊外において、南北高速道路建設事業(ホーチミン～ゾーザイ区間)にかかる記念式典が行われました。式典ではベトナム交通運輸省(MOT)副大臣 DONG 氏やホーチミン副市長 TIN 氏らがスピーチを行いました。



本事業はベトナムを縦断する高速道路網の一部をなすものであり、ホーチミン市内から北東に向かい、ゾーザイ地区で国道1号線と交差する約55km区間を対象とします。また、MOT傘下にある高速道路公団(VEC)を実施機関とし、JICAとアジア開発銀行(ADB)の協調融資により実施され、ホーチミン～ロンタイン区間の融資をJICAが、ロンタイン～ゾーザイ区間の融資をADBが担当します。

今回完成したパッケージ1Aは全9パッケージある本事業の中で最初に完工した記念すべきパッケージとなりました。今後、パッケージ1B、パッケージ2、パッケージ3が順次完工予定であり、2013年末には高速道路の部分開通がなされ、供用が開始されることも見込まれています。

同日に続けて着工式が行われたパッケージ7と8は本高速道路と東西ハイウェイ(有償資金協力より建設され2011年11月に開通済)を結ぶ区間であり、本区間が完工しロンタインまでの区間全線が開通した暁にはホーチミン中心部からロンタインまでの車両移動時間が現在の1時間から半分以下に短縮されます。また、カイメップ・チーパイ港や将来建設されるロンタイン新空港への周辺インフラへのアクセスも大きく向上し、同時に渋滞が顕在化しているホーチミン周辺道路の渋滞緩和にも寄与することが見込まれています。

2. ハノイ工業大学プロジェクトの稲川、森専門家・林田企画調査員に商工大臣勲章授与 後継プロジェクトのR/Dを署名

1月24日、ハノイ工業大学に派遣の稲川、森両専門家が帰国し、3年間の「ハノイ工業大学技能者育成支援プロジェクト」が終了しました。



同プロジェクトは、※1)PDCAや産学連携を通じての職業訓練カリキュラムの改善、2)パイロット技能検定の実施、3)インターンシップや就職支援の強化、に取り組み、いずれについても十二分の成果が残りました。

プロジェクト終了間際の12月15日には、同プロジェクトとベトナム労働・傷病兵・社会省(MOLISA)早木派遣技能検定専門家の連携により、ベトナムのものづくり分野では初となるマシニングセンターの国家技能検定が実施さ

れ、NHKニュースでも紹介されるなど、当地進出日系企業等を中心に高い評価を得ました。

12月26日には、ベトナム各地の職業訓練学校の関係者等約80名を集め、同プロジェクトのグッドプラクティスを普及させるための成果発表会も行われました。

1月8日には最終JCCが開催され、プロジェクト目標の達成が確認されるとともに、両専門家およびJICA事務所林田企画調査員に対し、ベトナム産業界に対する貢献を称え、商工大臣勲章が授与されました。

ハノイ工業大学に対する協力は一旦終了したものの、これまでJICAが10年以上に亘り同大学に対して実施した技術移転の成果を他の職業訓練学校に普及させることを目的に、12月25日には「ハノイ工業大学指導員育成機能強化プロジェクト」のR/D(Record of discussion)署名が商工省にて行われました。同プロジェクトは本年6月頃の開始を予定しています。



※PDCA:事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する

環境保全

3. カントー橋建設事業におけるNTTデータ社による橋梁維持管理システムのオープニングセレモニーの開催

2012年12月21日にカントー市で、2011年より供用が開始されているODAローン・カントー橋建設事業にかかる橋梁維持管理システムの設置完了にかかるオープニングセレモニーが開催されました。

橋梁維持管理システムは、橋梁に取り付けられた様々なセンサーで橋梁の状態をモニタリングするためのものです。気温や風力、湿度、雨量等を計測することで橋梁に与える影響をデータ化し分析することができます。またモニターを通して橋梁上の車の衝突事故や落下物の有無を確認することもできます。

世界ではこのような橋梁モニタリングシステムは一般的になってきていますが、ベトナムではまだほとんど設置されておらず、今後インフラの※アセットマネジメントの観点からも同様のシステムの導入が順次進むと見られています。

今回のシステム導入に関してはNTTデータ社が受注し、建設済みの橋梁に数多くのセンサーの取り付け工事を行い、計測のためのシステムを構築するという難しい業務を工期どおりに終えられました。

オープニングセレモニーでは実施機関である運輸省傘下のクーロン建設会社MINH局長が記念スピーチを行い、本システムの橋梁維持管理にかかる役割とこれからの期待を述べられました。引き続き、カントー橋付近に設置された維持管理センター内において同システムのデモンストレーションが行われ、システムの役割と機能の紹介、そして今後システムを管理していくベトナム人スタッフへの研修終了認定書交付が行われました。

※アセットマネジメント:管理を実際の所有者に代行して管理行うこと。



4.(技プロ)「ハロン湾環境保全プロジェクト」最終ワークショップ開催

12月14日、技プロ「ハロン湾環境保全プロジェクト」の最終ワークショップ(WS)がクアンニン省ハロン市で盛大に開催されました。



本案件は、①環境モニタリング・汚染源管理に係る計画及び人材育成、②沿岸環境保全のための土地利用管理計画の策定、③持続可能な観光開発政策の検討、④環境教育の普及及び、⑤クアンニン省による「ハロン湾の持続可能な観光開発のための環境保全戦略」の立案支援を2010年より3年間行ってきました。今回の最終WSでは、本プロジェクトの最終成果を行政・市民・企業・観光客の全ての関係者に対して報告・広報し、理解を深めてもらうためにクアンニン省が企画したものです。今後は、プロジェクトの成果を活用したクアンニン省自身による具体的な取り組みが期待されます。

5. 森林セクター(REDD+)インドシナ地域の連携促進(12月13~14日)

(1) ディエンビエン省REDD+パイロットプロジェクト地域ワークショップ

ディエンビエン省で実施中の※REDD+パイロットプロジェクトが、国内並びにラオスとカンボジアのREDD+関係者を招待し、地域ワークショップを開催しました。国際的なREDD+の盛り上がりに沿って、インドシナ3国も自国での活動を精力的に進め、JICAも森林セクターの重点トピックとして、当該国のニーズに合わせた協力を進めています。国際的な制度・方法論が試行錯誤を経て進められる中、三国三様な取り組みを通じて、他事例を知り自国の取り組みを考える貴重な機会となりました。

(2) インドシナ3国JICA REDD+関係者意見交換会

翌日はベトナム事務所主催で、前日のワークショップに参加したベトナム、ラオス、カンボジアのJICA専門家間で意見交換会を開催。直前に開催されていた国連気候変動枠組条約第18回締約国会議(COP18)でのREDD+動向、各国のREDD+とJICA支援、炭素市場の現状等の紹介を通じて、技術的事項やJICAとしてのREDD+支援のあり方について議論。それを受けて、JICA本部とTV会議で結果の共有とさらなる意見交換を行いました。

その後、一部参加者はディエンビエン省でのフィールド視察に参加し、ベトナム北西部の森林・自然状況と、JICAの具体的なREDD+支援について触れることができました。

多くの国でJICAのREDD+支援が進む中、今回のようにインドシナ3国が一同に会しての意見交換は非常に有意義でした。次回はカンボジアがホストとなり、ベトナムからも価値ある成果をもって参加できるよう取り組みたいと思います。

※REDD+開発途上国における森林減少・劣化等による温室効果ガス排出量の削減(Reducing Emissions from Deforestation and forest Degradation and the role of conservation, sustainable management of forests and enhancement of forest carbon stocks in Developing countries)

6.(技プロ)「ビズップ・ヌイバ国立公園管理能力強化プロジェクト」

～エコツーリズム本格始動、大型グループの訪問～

本プロジェクトは、ラムドン省ビズップ・ヌイバ国立公園管理事務所をカウンターパートに、2010年1月から4年間の計画で実施されており、事業の一つとしてコミュニティ・ベースド・エコツーリズムのトライアルを実施しています。昨年12月28日から31日の4日間、同国立公園にベトナム各地から550名の団体が訪問してキャンプを行いました。

この4日間、同団体の人々に対し、ビジターセンターにおいてプロジェクトで作製した展示物を使った環境保護や地域文化に関するインタープリテーション、伝統織物の実演と販売、伝統的な民族楽器であるゴングの演奏と民族ダンスの披露、3箇所トレイルへの案内等を行いました。本プロジェクトでは、同公園職員や付近に住む少数民族で

あるコホの人々に対し、インタープリテーションや民族ダンス、伝統織物などの研修を実施してきましたが、今回の大型グループの受け入れは、これらの研修の成果を示す良い機会ともなりました。

参加したコホの人々は、「最初は緊張したが、徐々に慣れて後半は楽しくインタープリテーションや演奏ができた」と喜んでいました。また、同公園事務所に配属中の協力隊員2名も積極的に訪問団に対応しました。

同団体の受け入れに備え、公園管理事務所では数ヶ月前から先方との打ち合わせ、受け入れ計画作成及びその実施、直前研修などの準備を行い、訪問前日からは公園管理事務所に多くの職員が泊り込んで対応しました。その努力の甲斐があって成功裏に終了し、同団体代表からはキャンプの成功に対して感謝の意を示して頂きました。経験不足から細かい問題がいくつか生じましたが、反省会を行い、今後、改善点をマニュアル化し将来に備えることにしています。



同国立公園への訪問者は同トライアル初年度の2012年の1年間には約2,100人でしたが、本年は訪問者数の大幅増とサービスの質の向上、コミュニティの人々のさらなる参加を目指し、残されたプロジェクト期間でできる限りの支援を行っていきます。

その他

7.カンボジア政府ミッションによるホーチミン市周辺インフラ事業視察

2013年1月28日・29日の日程で、VEC(Vietnam Expressway Company)との意見交換や事業サイト視察を行いました。このミッションは、今後ODAローンによる運輸関係の事業が増加することが見込まれるカンボジアにおいて、各種条件が似ている隣国であり且つローン事業の豊富な経験を有するベトナムでの知見を学ぶために、JICAカンボジア事務所が企画し、JICAベトナム事務所・南部連絡所が協力し実施されたものです。

ミッションの参加者は経済財政省、公共事業運輸省、水資源気象庁のカンボジア3省庁のスタッフからなる13名のメンバーで、JICAカンボジア事務所からは江上所員と山下専門家が同行しました。

VECとの意見交換の場では、建設工事全般、住民移転の手続きや課題、環境影響評価の作成方法、JICA各ガイドラインの手続き、安全対策などにつき活発な意見のやり取りが行われました。案件視察では、ODA案件の南北高速道路や東西ハイウェイ、都市鉄道1号線などを見学し、またホーチミン市とプノンペンを結ぶ国道22号線も一部視察しました。カンボジアからの参加者からは、今回ホーチミン市のインフラの発展や課題を理解したことはカンボジアでの今後のインフラ整備にかかるヒントになったとのコメントが聞かれました。

8.ボランティア総会開催

2012年12月13日から15日にかけて、ボランティアの帰国・中間報告会、ボランティア総会等イベントが開催されました。

帰国・中間報告会では、1月初旬に帰国された9名のボランティアからの2年間の活動の振り返りと赴任から1年を経過したボランティアの活動中間の小括および今後の取り組みに向けての発表がありました。ボランティア総会では、ボランティア同士で、また事務所も含めて様々な課題に対しての協議が行われました。

普段はベトナム各地で、一人で活動することが多いボランティアにとって、こういった機会は活動や生活の悩みを共有し、今後の活動に向けての英気とアイデアを得られる貴重な場ではないかと考えます。

次回の帰国・中間報告、そしてボランティア総会もより充実した内容で行われることを期待しています。